

2016年度 後期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	建築・デザイン学科						
科目名	静定構造力学Ⅱ及び演習						
科目区分	専門科目	単位数	3 単位	開講時期	1 年後期		
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース) 必修科目(建築・デザインコース)						
担当者	小野聡子						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・部材断面における諸性質を求めることができる。 ・垂直応力度・曲げ応力度・せん断応力度・組み合わせ応力度などを求めることができる。 ・許容応力度を求めることができる。 ・各種定理により部材のたわみ角やたわみを求めることができる。 						
日程と内容	第 1 回 : 導入講義 第 2 回 : 断面の性質 (1) 第 3 回 : 断面の性質 (2) 第 4 回 : 主軸・垂直応力度 第 5 回 : 曲げ応力度 第 6 回 : せん断応力度 第 7 回 : 組み合わせ応力度 第 8 回 : 許容応力度 第 9 回 : まとめ (中間試験 (注 : 第 1 回から第 7 回までの授業を対象)) 第 10 回 : オイラーの弾性曲線式 (表より算定) 第 11 回 : オイラーの弾性曲線式 (算式法) 第 12 回 : モールの定理 第 13 回 : モールの応力円 (図解法) 第 14 回 : モールの応力円 (算式法) 第 15 回 : 総復習 定期試験						
成績評価基準	定期試験	30%	実技				
	臨時試験	30%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	10%					
	演習	30%	計	100%			
授業到達目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・部材断面における諸性質を求めることができる。 → 達成した ・垂直応力度・曲げ応力度・せん断応力度・組み合わせ応力度などを求めることができる。 → 達成した ・許容応力度を求めることができる。 → 達成した ・各種定理により部材のたわみ角やたわみを求めることができる。 → 達成した 						
反省点	学生間でレベル差があるため、本学部に赴任してからは、演習時間に実施する演習問題を講義 2 日前までじっくり考えて作成した。これにより、(授業評価アンケートから)学生の理解度はアップしたように思えるが、2 日前までじっくり考えることがあだとなって、演習問題をバタバタと作成することになってしまった。それが要因となり、演習問題にミス(講義で教えた内容以外を含む)があり、後日訂正することが何度かあった。演習問題作成後はミスがないかを何度も確認しているが、もっとしっかりと確認したい。						
来年度の計画	建築士試験に対応した内容について講義を継続する。本科目では、私と TA とで演習時間の質問に対応したが、この方法の方が受講学生の理解度がアップしたように思える。今後もこの方法を踏襲する予定である。一方、演習問題を再提出させる際の再提出日を、もう少し余裕を持たせることができないか検討する。						
授業評価アンケートに対するコメント	2016 年前のに『静定構造力学Ⅰ及び演習』と比較して、全体的に評価がよくなったような気がする。『静定構造力学Ⅰ及び演習』で得た経験および反省を本科目に活かすことができたことが、評価向上の要因かと考えている。また、私の講義および演習の進め方に学生たちが慣れてきたことも、評価が上がった要因ではないかと判断している。『説明がわかりやすい』や『板書が見やすい』などの評価は大変うれしい。一方、科目の内容上、高評価の学生とそうでない学生とに必ず分かれる。おそらく、演習問題にきちんと取り組まないうえ、自主学習をしない学生の理解度は低いと考えているが、それら学生のアンケート結果は、きっと高評価ではないだろう。演習問題を提出しない学生は、きちんと取り組んでからコメントして欲しい。						
履修登録者数	85 名	定期試験 受験者数	78 名	合格者数	67 名	合格率	86%